

NGO・NPOの活動事例から
水辺の環境保全活動に対する助成金「LOVE BLUE助成」で活動する2団体を紹介します。両団体とも「自分の目で見て学ぶ」ことを重視し、参加型の啓発活動を積極的に実施。また教育機関や漁業関係者とも協働し、地域を巻き込んだ活動を展開しています。



理事長 渡邊 勝美さん

特定非営利活動法人 **アンダンテ21**
〔活動名〕協働と次世代育成をめざした
益田市水環境保全プロジェクト
島根県益田市 <https://www.andante21.org/>

「森～川～海」がつながる豊かな環境を地域の宝として次世代に継承するために

私たちは平成15年から島根県益田市で環境保全活動に取り組んでいます。当初は市内を流れる一級河川、高津川流域を中心に活動。22年度から5年連続で高津川が国土交通省水質調査の日本一になるなどの成果を得ました。そして今、私たちが力を入れているのが、海岸線一帯での活動です。市の海岸は、高津川などの川が森から供給される上質な砂や栄養を河口域に運ぶことで、豊かな生態系が育まれています。「森～川～海」が繋がったこの環境は、地域が誇る自然環境資本であり、地域の環境保全を考えるうえで川と海を切り離すことはできないと考え、活動の場所を広げました。

地域の未来のために次世代への教育に尽力

市の海岸は景勝地としてはもちろん、釣りや海水浴などのレジャーにも適し



釣り教室の様子。まず海岸の清掃をした後で、釣りにチャレンジする

た素晴らしい環境ですが、残念ながらそれをまちづくりに活用できていません。また次世代への教育や継承システムが未構築なことも問題です。そこで私たちは、昨年度から地域の親子を対象にした体験型環境教室を企画しています。体験の内容はシーカヤックや魚釣りなど様々ですが、全てに共通するのが「自分の遊び場をきれいにしてから」という考え方で、必ず清掃活動をしてから体験を始めます。海岸の地形によってこみの傾向が異なることもあれば、200kg以上のこみが集まることもあります。終了後のアンケートで「地域の水環境への関心が増した」と回答した人が9割を超え、イベントが環境を考えるきっかけになっている手こたえを感じます。また学校での水環境学習にも力を入れています。小学校の「総合的な学習

小学校で授業を依頼している
益田市立安田小学校 教頭 田中 茂秋さん
に聞きました



海や川に対する情熱が子どもに伝わる授業

以前から「地域の海や川について学ぶにはアンダンテ21さんをおいて他にはない」という評判を聞いており、平成27年度から授業をお願いしております。アンダンテ21のみなさんは本当に海や川に対して情熱を持っており、それを自分の言葉で伝えようとしてくださるので、子どもたちが自然に話に引き込まれます。また教員では知らない知識や、実物を見たり触ったりできることが、子どもたちの興味や関心を強くひくようです。

学校も児童が身近な自然環境を学ぶことは非常に重要だと考えています。しかし教員が独自に調べるところから始めるには、準備に時間がかかりすぎます。そこでアンダンテ21さんには、学校が計画した学習を深めるための人や物のコーディネートの第一人者になっていただき、学校と地域の方々、行政、その他関係する機関との橋渡しをお願いしたいです。そして小学生に多くの人と出会う場をつくっていただき、その方の生き方や情熱が伝わるような授業を期待しております。

の時間」で地域の自然環境を取り上げる学校が多く、当団体が講師の依頼を受けます。私たちも地域の環境の未来には次世代の環境保全意識の向上が欠かせないと考えているため、できる限り依頼に応じます。一般向けイベントは一回限りがほとんどですが、学校は一年を通じて複数回授業があるため、フィールドでの生物採取、漁業見学、ごみ調査など様々なプログラムを実施。地域の環境問題に絡めたゴールを設定し、そこに向けて児童が自発的な問題提起や解決方法を発見できるように、先生方と綿密な打ち合わせや中間評価を重ねてプランを組んでいます。

最終目標は地域住民が主体の環境教育システム

私たちは全ての活動を通じて、地

主な活動
体験型環境教室
29年度は4回実施
・カヤック・生物採取体験 1回
・釣り教室 3回
参加人数 149人
学校での水環境学習
29年度は小学校2校2学年、高校1校で12回実施
授業を受けた小学生が、清掃活動や体験教室に50人以上自主的に参加



小学生のフィールド学習。毎回、スイッチが入ったかのように集中した児童が何人か出てくるという

域住民や行政との協働に力を注いでいます。環境教室や学校教育においてもできるだけ地域の人や漁業関係者に関わってもらおうという心がけています。そのかいあって、私たちが定期的に実施している河川清掃には、学校、自治会、飲食業組合、企業、行政など10団体以上、200人以上が協力してくれるようになりまし。また学校教育で漁港見学や漁具についての講義などをしてくださる漁師さんは、最初はあまり積極的ではなかったものの、今では年度初めに「今年はやらんのか」と気にかけてくれるようになりました。最近では、当団体を介さずに、学校が地域の人に直接講師を頼むこともできるようになっていきます。イベントにしても学校教育にしても、地域内の全てを当団体でやるのは不可

水辺の環境保全活動に特化した助成金「LOVE BLUE助成」

地球環境基金では、企業等のご寄付を直接助成に充てる「企業協働プロジェクト」を実施しています。その第一号として27年度からスタートした「LOVE BLUE助成」は、一般社団法人日本釣用品工業会より寄付された資金をもとに、水辺の環境保全活動に取り組む団体に助成するものです。

日本釣用品工業会は「LOVE BLUE ～地球の未来を～」をスローガンに、「釣りで自然を汚さない」から「釣りが自然を再生させる一助になる」ように環境への意識を高め、世界に誇る「水辺の環境保全」を志向する社会貢献事業を実施しています。

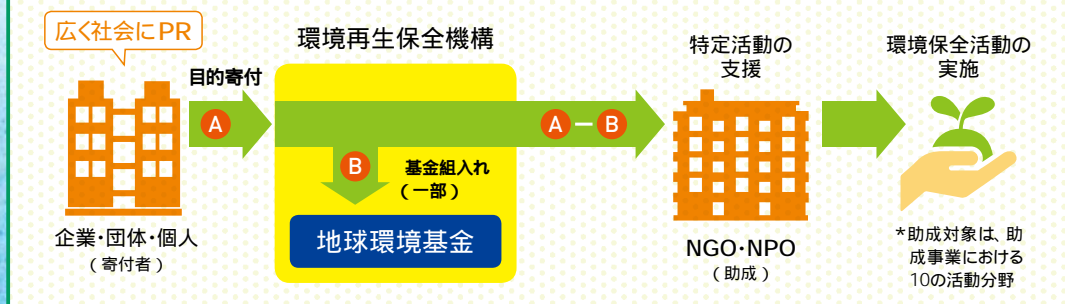
（平成27年度から地球環境基金との企業協働プロジェクト「つり環境ビジョン助成」が始まり、平成29年度から「LOVE BLUE助成」に名称変更しました。

日本釣用品工業会HP <http://www.jaftma.or.jp/>



地球環境基金企業協働プロジェクトの仕組み

企業等（企業・団体・個人など）のご寄付を直接助成に充て、当該企業等からの拠出によることを明らかにして助成する、新しい仕組みです。



能です。残念ながら、依頼を受けても時間が足りずに断ることもあります。先述の学校が地域の人に直接講師を依頼するような、地域住民が主体となっ

た地域の環境教育システムが構築されていくことが私たちの最終目標だと考え、今後も地域を巻き込んだ活動を進めていきたいです。

